

製品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容にそって正しく取り付けてください。
取付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

樹脂被覆タイプ／ステンレスタイプ

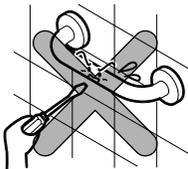
1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください。)

取付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みの上、正しく取り付けてください。

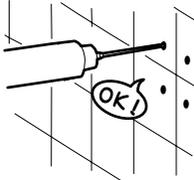
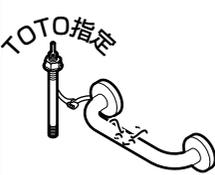
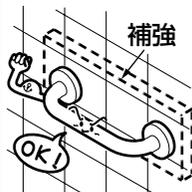
- この説明書では機器を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。
- お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

表示	意味
 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取扱いをすると、傷害又は物的損害が発生する可能性があることを示しています。

	分解しないでください。
	必ず実行していただく「強制」内容です。

 注意		
 分解禁止	<p>修理技術者以外の方は絶対に分解したり、修理・改造は行わないでください。</p> <p>故障の原因になります。</p>	
 必ず実行	<p>必ず強度のある壁・建築構造体に取り付けてください。</p> <p>土壁・石膏ボード壁などの強度の無い壁に直接取り付けると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。</p>	

注意

 必ず実行	<p>浴槽等の水まわりに使用される際は、取り付け穴の周囲に必ずシーリング剤を塗布してください。</p> <p>シーリング剤を塗布しないと、壁裏へ水が浸入し、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。</p>	
	<p>必ず当社指定の固定金具を使用してください。</p> <p>当社指定の固定金具を使用しないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。</p>	
	<p>各下地の取付方法をよく読み、十分な下地の厚さ、および補強が有ることを確認してください。</p> <p>下地に十分な厚み・補強がないと、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。</p>	
	<p>取付け完了後、手すりにガタツキが無いことを確認してください。</p> <p>手すりにガタツキがあると、手すりが外れたり、壁が壊れたりして使用される方が転倒し、けがをするおそれがあります。</p>	

2

取付け前に

取付け前の注意

- 手すりを取り付ける壁に**十分な強度がある**ことを確認してください。
- 手すりは屋外や水没する場所には取り付けない**でください。
変色や変形のおそれがあります。
- 光電センサー付き商品と手すりを組み合わせる場合には、センサーが手すりを感知しない**ように取り付けてください。
なお、光電センサー付き商品と手すり取付位置は光電センサー付き商品の説明書又は設計施工資料集などを参照してください。
- 取付方法は建物の構造に応じて**適切な方法を選んでください**。
なお、手すりは、手すり本体と壁（床）の固定金具が別々の品番になっていますので、壁の構造に応じて別途固定金具をご注文ください。
固定金具必要セット数は「**③ 固定金具（別売品）**」を参照してください。
※掲載以外の取付方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

樹脂被覆タイプの握りバーについて

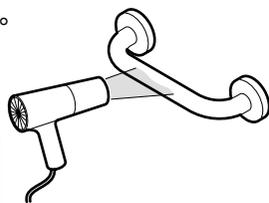
- 樹脂被覆タイプの握りバー表面に傷を入れると補修できませんので、取扱いには注意してください。
- 樹脂被覆タイプの握りバー表面は軟質樹脂のため、製品の梱包材などが握りバー表面に接すると、握りバー表面にへこみが発生することがあります。その場合は下記要領にて修正してください。

〈修正方法〉

ヘアドライヤーにてへこみ部分に2～3分程度熱風を当てる。
※へこみの程度により熱風を当てる時間が変わりますので、へこみの復元状態を見ながら修正してください。

注意

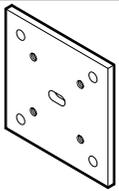
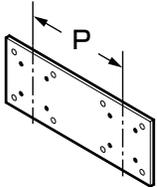
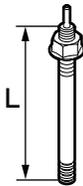
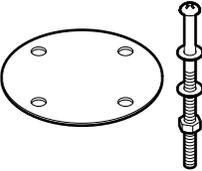
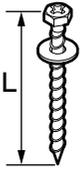
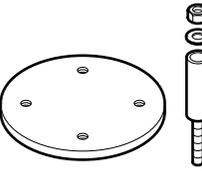
樹脂被覆タイプの握りバー表面の軟質樹脂に長時間熱風を当てないようにしてください。軟質樹脂部が焼けたり、変色したりすることがあります。



3-1

固定金具（別売品）

〈固定金具一覧表〉

品番	取付方法	形状	セット内訳
T110D11	取付プレート固定		固定箇所:1ヵ所分 ・取付プレート/1枚
T110D12 (P=160) T110D13 (P=180) T110D14 (P=200)	取付プレート固定		固定箇所:上下2ヵ所分 ・取付プレート/1枚
T110D3 (L=70) T110D18 (L=100)	アンカーボルト固定		固定箇所:1ヵ所分 ・アンカーボルト/4本
T110D4	はさみ込み固定		固定箇所:1ヵ所分 ・取付プレート/1枚 ・ボルト・ナット/各4個 ・座金/8個
T110D15 (L=70) T110D16 (L=50) T110D23 (L=33)	コーチねじ固定		固定箇所:1ヵ所分 ・コーチねじ/4本 ・座金/4個
T110D22	はさみ込み固定		固定箇所:1ヵ所分 ・取付プレート/1枚 ・ボルト・パイプ/各4個 ・座金・ナット/各4個

〈固定金具及び現場調達部品必要個数一覧表〉

●床固定のある手すりは床固定用の固定金具はアンカーボルト固定(コンクリート床)の場合で示しています。

●一覧表内の **※印は現場調達部品です。** 工具店、ホームセンター等でお買い求めください。

ボルト、パイプの長さは壁の厚みを考慮してご用意ください。各部品の詳細は以下の通りです。

- ・ボルト・・・M6ステンレス長ねじボルト
- ・ボルト・・・M6ステンレスナット
- ・座金・・・M6用座金
- ・パイプ・・・金属製パイプ(φ13.8t2)

注1:壁厚が50mm以内の場合のみ使用可能です。

注2:対応可能なトイレブースは厚み40mmペーパーハニカム、メラミンもしくはポリエステル化粧合板仕様相当です。

注3:トイレブースの厚みが30mmの場合に取付可能です。

注4:壁仕上げ面の厚みが15mm以内の場合は、T110D23も使用可能です。

注5:トイレブースの中に補強木を入れてください。

下地 (取付方法) 手すり	・コンクリート下地 (取付プレート固定) ・GL工法 (取付プレート固定)	・コンクリート下地 (アンカーボルト 固定)	・木下地 (はさみ込み 固定)	・木下地 (コーチねじ固定) ・軽量鉄骨下地 (コーチねじ固定)	・コンクリートブロック下地 (取付プレートはさみ 込み固定)	・GL工法 (アンカーボルト+ パイプ使用固定) 注1	・軽量鉄骨下地 (取付プレート溶接固定)	・トイレブース (はさみ込み 固定) 注2	・トイレブース (コーチねじ 固定) 注3
多用途用I型	T110D11×2、T110D3×2 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	T110D3×2	T110D4×2	T110D16×2 注4	T110D11×4 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×24	T110D18×2 ※パイプ×8	T110D11×2 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	T110D22×2	T110D23×2
多用途用L型	T110D11×3、T110D3×3 ※ボルト×12、※ナット×24 ※座金×12	T110D3×3	T110D4×3	T110D16×3 注4	T110D11×6 ※ボルト×24、※ナット×48 ※座金×36	T110D18×3 ※パイプ×12	T110D11×3 ※ボルト×12、※ナット×24 ※座金×12	T110D22×3	T110D23×3
多用途用L型 (T112CL4・CR4)	T110D11×3、T110D3×3 ※ボルト×12、※ナット×24 ※座金×12	T110D3×3	T110D4×3	T110D15×3	T110D11×6 ※ボルト×24、※ナット×48 ※座金×36	T110D18×3 ※パイプ×12	T110D11×3 ※ボルト×12、※ナット×24 ※座金×12	—	—
腰掛便器用L型	T110D11×3、T110D3×3 ※ボルト×12、※ナット×24 ※座金×12	T110D3×3	T110D4×3	T110D15×3	T110D11×6 ※ボルト×24、※ナット×48 ※座金×36	T110D18×3 ※パイプ×12	T110D11×3 ※ボルト×12、※ナット×24 ※座金×12	—	—
腰掛便器用P型 (T112CP1・2 T113BP1・2)	T110D12×1、T110D3×3 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	T110D3×3	T110D4×2 T110D3×1	T110D15×2 T110D3×1	T110D12×2、T110D3×1 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×24	T110D18×2 T110D3×1 ※パイプ×8	T110D12×1、T110D3×1 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	—	—
腰掛便器用P型 (T112CP6・7)	T110D12×1、T110D3×2 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	T110D3×2	T110D4×2	T110D15×2	T110D12×2 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×24	T110D18×2 ※パイプ×8	T110D12×1 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	—	—
腰掛便器用T型	T110D11×1、T110D3×2 ※ボルト×4、※ナット×8 ※座金×4	T110D3×2	T110D4×1 T110D3×1	T110D15×1 T110D3×1	T110D11×2、T110D3×1 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×12	T110D18×1 T110D3×1 ※パイプ×4	T110D11×1、T110D3×1 ※ボルト×4、※ナット×8 ※座金×4	—	—
和風便器用 (T112CW1 T113BW1)	—	T110D3×2	—	—	—	—	—	—	—
和風便器用 (T112CW2 T113BW2)	—	T110D3×2	T110D4×3	T110D15×2	—	T110D18×2 ※パイプ×8	—	T110D22×3 注5	—
和風便器用 (T112CW3 T113BW3)	—	T110D3×1	T110D4×2	T110D15×1	—	T110D18×1 ※パイプ×4	—	T110D22×2 注5	—
小便器用 (T112CU1・CU2 T113BU1R・BU2)	T110D12×2、T110D3×4 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×16	T110D3×4	T110D4×4	T110D15×4	T110D12×4 ※ボルト×32、※ナット×64 ※座金×48	T110D18×4 ※パイプ×16	T110D12×2 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×16	—	—

● 床固定のある手すりは床固定用の固定金具はアンカーボルト固定（コンクリート床）の場合で示しています。

● 一覧表内の **※印は現場調達部品です。** 工具店、ホームセンター等でお買い求めください。
ボルト、パイプの長さは壁の厚みを考慮してご用意ください。各部品の詳細は以下の通りです。

- ・ボルト・・・M6ステンレス長ねじボルト
- ・座金・・・M6用座金
- ・ナット・・・M6ステンレスナット
- ・パイプ・・・金属製パイプ(φ13.8t2)

※浴室入り隅用L型はコーチねじ(T110D16×3)固定のみとなります。
プラグは現場調達していただく必要があります。別途ご用意ください。
(他の取付方法は固定ねじがフランジに当たり取付けできません)

注1:壁厚が50mm以内の場合のみ使用可能です。
注2:対応可能なトイレブースは厚み40mmペーパーハニカム、メラミンもしくはポリエステル化粧合板仕様相当です。

注3:トイレブースの厚みが30mmの場合に取付可能です。

手すり	下地 (取付方法)	・コンクリート下地 (取付プレート固定)	・GL工法 (取付プレート固定)	・コンクリート下地 (アンカーボルト 固定)	・木下地 (はさみ込み 固定)	・木下地 (コーチねじ固定)	・軽量鉄骨下地 (コーチねじ固定)	・コンクリートブロック下地 (取付プレートはさみ 込み固定)	・GL工法 (アンカーボルト+ パイプ使用固定) 注1	・軽量鉄骨下地 (取付プレート溶接固定)	・トイレブース (はさみ込み 固定) 注2	・トイレブース (コーチねじ 固定) 注3
小便器用 (T110BU1R・ BU2)		T110D14×2、T110D3×4 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×16		T110D3×4	T110D4×4	T110D15×4		T110D14×4 ※ボルト×32、※ナット×64 ※座金×48	T110D18×4 ※パイプ×16	T110D14×2 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×16	—	—
洗面器用 (T110BL1)		T110D13×2、T110D3×6 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×16		T110D3×6	T110D4×4 T110D3×2	T110D15×4 T110D3×2		T110D13×4、T110D3×2 ※ボルト×32、※ナット×64 ※座金×48	T110D18×4 T110D3×2 ※パイプ×16	T110D13×2、T110D3×2 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×16	—	—
壁掛洗面器用 (T112CPW) (T113BPW)		T110D12×2、T110D3×6 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×16		T110D3×6	T110D4×4 T110D3×2	T110D15×4 T110D3×2		T110D12×4、T110D3×2 ※ボルト×32、※ナット×64 ※座金×48	T110D18×4 T110D3×2 ※パイプ×16	T110D12×2、T110D3×2 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×16	—	—
壁掛洗面器用 (T112CPW1)		T110D11×2、T110D12×2 T110D3×6 ※ボルト×24、※ナット×48 ※座金×24		T110D3×6	T110D4×6	T110D15×6		T110D11×4、T110D12×4 ※ボルト×48、※ナット×96 ※座金×72	T110D18×6 ※パイプ×24	T110D11×2、T110D12×2 ※ボルト×24、※ナット×48 ※座金×24	—	—
壁掛洗面器用 (T112CP3) (T113BP3)		T110D12×1、T110D3×3 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8		T110D3×3	T110D4×2 T110D3×1	T110D15×2 T110D3×1		T110D12×2、T110D3×1 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×24	T110D18×2 T110D3×1 ※パイプ×8	T110D12×1、T110D3×1 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	—	—
壁掛洗面器用 (T110BL2)		T110D13×1、T110D3×3 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8		T110D3×3	T110D4×2 T110D3×1	T110D15×2 T110D3×1		T110D13×2、T110D3×1 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×24	T110D18×2 T110D3×1 ※パイプ×8	T110D13×1、T110D3×1 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	—	—
壁掛洗面器用 (T112CP8)		T110D11×1、T110D12×1 T110D3×3 ※ボルト×12、※ナット×24 ※座金×12		T110D3×3	T110D4×3	T110D15×3		T110D11×2、T110D12×2 ※ボルト×24、※ナット×48 ※座金×36	T110D18×3 ※パイプ×12	T110D11×1、T110D12×1 ※ボルト×12、※ナット×24 ※座金×12	—	—
加圧洗面器用		T110D11×2、T110D3×4 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8		T110D3×4	T110D4×2 T110D3×2	T110D15×2 T110D3×2		T110D11×4、T110D3×2 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×24	T110D18×2 T110D3×2 ※パイプ×8	T110D11×2、T110D3×2 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	—	—
浴室洗い場用I型		T110D11×2、T110D3×2 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8		T110D3×2	T110D4×2	T110D15×2		T110D11×4 ※ボルト×16、※ナット×32 ※座金×24	T110D18×2 ※パイプ×8	T110D11×2 ※ボルト×8、※ナット×16 ※座金×8	—	—

4-1

完成図

※図面は樹脂被覆タイプ、()寸法はステンレスタイプT113型・T110B型、< >はT110B型の場合

多用途用I型				多用途用L型				腰掛便器用L型								
L (mm)	樹脂被覆	ステンレス		L (mm)	タイプ	樹脂被覆	ステンレス	タイプ	樹脂被覆	タイプ	樹脂被覆	ステンレス				
300	T112C3	T113B3	T110BM1	500	Lタイプ	T112CL	T113BL	Lタイプ	T112CL5	Lタイプ	T112CL2	T113BL2				
400	T112C4	T113B4	T110BM2		Rタイプ	T112CR	T110BML	Rタイプ	T112CR5	Rタイプ	T112CR4	T110BML2				
500	T112C5	T113B5	T110BM3	600	Lタイプ	T112CL1	T113BR	Lタイプ	T112CL4	Rタイプ	T112CR2	T113BR2				
600	T112C6	T113B6	T110BMR				T110BMR1					T110BMR	T110BMR2			
700	-	-	T110BM5		Rタイプ	T112CR1	T113BL1	T113BR1	Rタイプ	T112CR4	A	T113BR1				
800	T112C8	T113B8	T110BM6				T110BMR1	T110BMR1				T110BMR2				
900	-	-	T110BM7				T110BMR1	T110BMR1				T110BMR2				
1000	T112C10	T113B10	T110BM8	※図面はLタイプの場合			※図面はLタイプの場合			※図面はLタイプの場合						
<p>※T110BML2・BMR2、 T112CL2・CR2の場合は A のみ、 ※T113BL2・BR2の場合は A B です</p>																
腰掛便器用L型			腰掛便器用P型			腰掛便器用T型		和風便器用								
タイプ	樹脂被覆	ステンレス	L (mm)	樹脂被覆	ステンレス	L (mm)	樹脂被覆	樹脂被覆	ステンレス	樹脂被覆	ステンレス					
Lタイプ	T112CL3	T113BL3	550	T112CP1	T113BP1	550	T112CP6	T112CW1	T113BW1	T112CW3	T113BW3					
Rタイプ	T112CR3	T113BR3	700	T112CP2	T113BP2	700	T112CP7	T112CW1	T113BW1	T112CW3	T113BW3					
※図面はLタイプの場合																

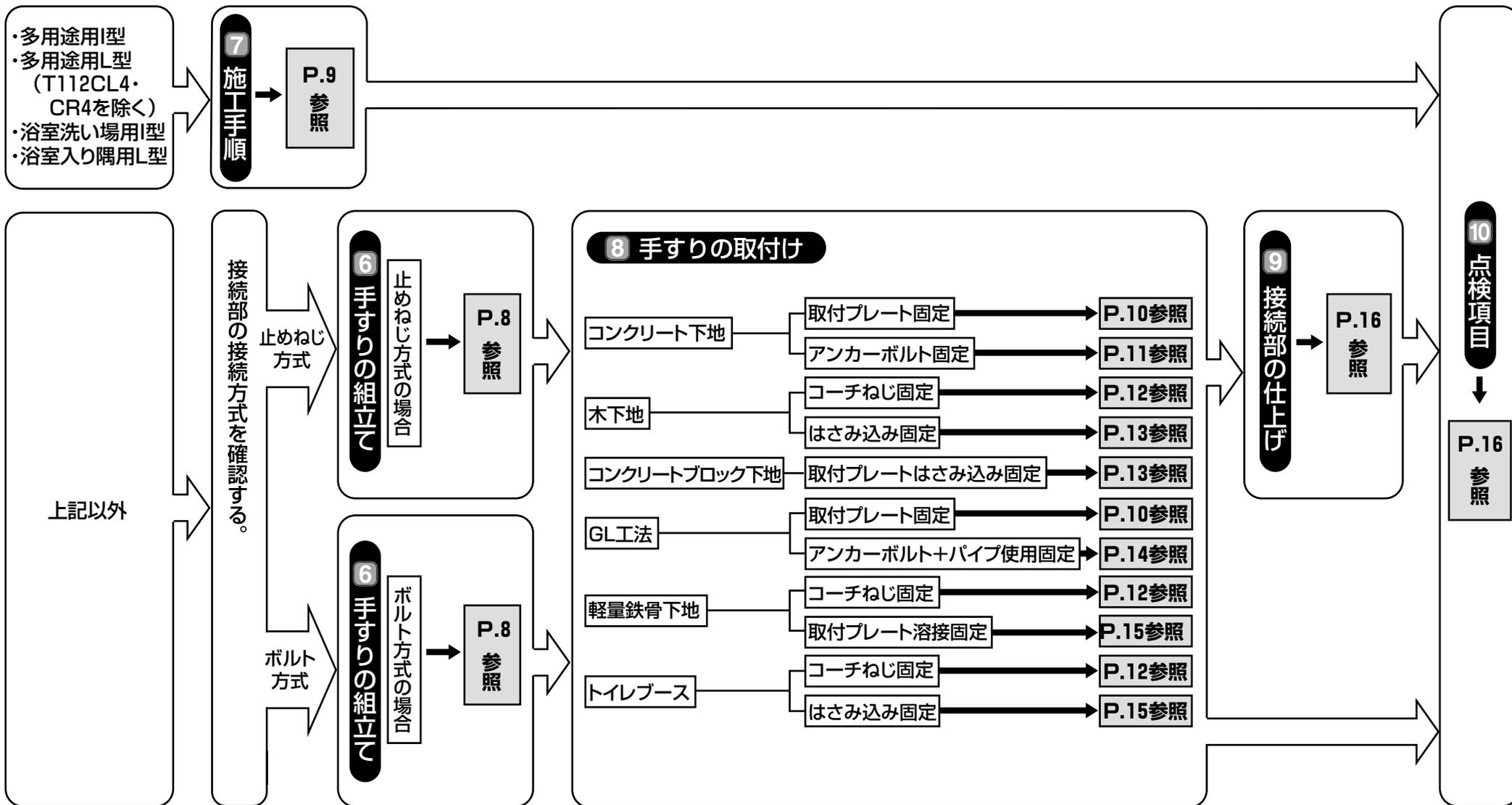
※図面は樹脂被覆タイプ、()寸法はステンレスタイプT113型・T110B型、< >はT110B型の場合

和風便器用		小便器用		壁掛洗面器用																						
<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> <th>ステンレス</th> </tr> <tr> <td>T112CW2</td> <td>T113BW2</td> </tr> </table>	樹脂被覆	ステンレス	T112CW2	T113BW2	<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> <th>ステンレス</th> </tr> <tr> <td>T112CU1</td> <td>T113BU1R</td> </tr> <tr> <td></td> <td>T110BU1R</td> </tr> </table>	樹脂被覆	ステンレス	T112CU1	T113BU1R		T110BU1R	<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> <th>ステンレス</th> </tr> <tr> <td>T112CU2</td> <td>T113BU2</td> </tr> <tr> <td></td> <td>T110BU2</td> </tr> </table>	樹脂被覆	ステンレス	T112CU2	T113BU2		T110BU2	<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> <th>ステンレス</th> </tr> <tr> <td>T112CPW</td> <td>T113BPW/T110BL1 注</td> </tr> </table> <p>※杖使用者用 注:洗面器用手すり</p>	樹脂被覆	ステンレス	T112CPW	T113BPW/T110BL1 注	<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> </tr> <tr> <td>T112CPW1</td> </tr> </table> <p>※杖使用者用</p>	樹脂被覆	T112CPW1
樹脂被覆	ステンレス																									
T112CW2	T113BW2																									
樹脂被覆	ステンレス																									
T112CU1	T113BU1R																									
	T110BU1R																									
樹脂被覆	ステンレス																									
T112CU2	T113BU2																									
	T110BU2																									
樹脂被覆	ステンレス																									
T112CPW	T113BPW/T110BL1 注																									
樹脂被覆																										
T112CPW1																										
壁掛洗面器用		カウンター洗面器用		浴室洗い場用I型																						
<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> <th>ステンレス</th> </tr> <tr> <td>T112CP3</td> <td>T113BP3/T110BL2</td> </tr> </table> <p>※L103用車いす・杖使用者兼用</p>	樹脂被覆	ステンレス	T112CP3	T113BP3/T110BL2	<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> </tr> <tr> <td>T112CP8</td> </tr> </table> <p>※L103用車いす・杖使用者兼用</p>	樹脂被覆	T112CP8	<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> <th>ステンレス</th> </tr> <tr> <td>T112CP4</td> <td>T113BP4</td> </tr> </table> <p>※ML30,32,34,MQ34用</p>	樹脂被覆	ステンレス	T112CP4	T113BP4	<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> </tr> <tr> <td>T112CD6</td> </tr> </table>	樹脂被覆	T112CD6	<table border="1"> <tr> <th>樹脂被覆</th> </tr> <tr> <td>T112CL6</td> </tr> </table>	樹脂被覆	T112CL6								
樹脂被覆	ステンレス																									
T112CP3	T113BP3/T110BL2																									
樹脂被覆																										
T112CP8																										
樹脂被覆	ステンレス																									
T112CP4	T113BP4																									
樹脂被覆																										
T112CD6																										
樹脂被覆																										
T112CL6																										

5

施工の流れ

- T110BL1・BL2・BC1・BC2、T112CP1・CP2・CP3・CP4・CP8・CPW・CPW1・CU1・CU2及びT113BP1・BP2・BP3・BP4・BPWは、所定の形状に仮締めにして組み立て、取り付け後、本締めをしてください。
- ねじ・ボルト類が梱包箱に入っていることを確認してください。



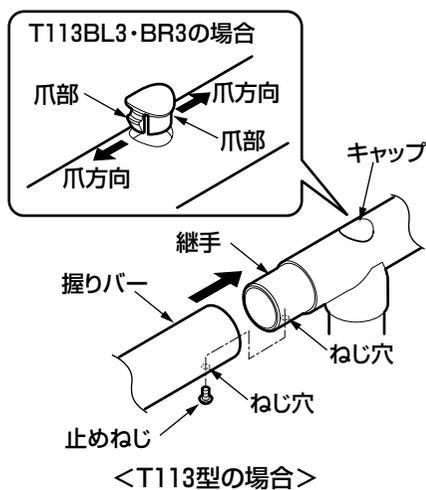
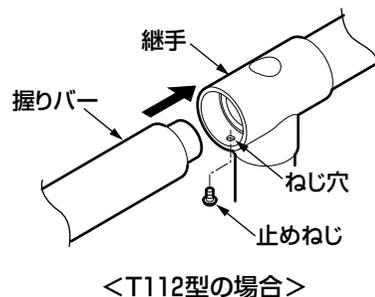
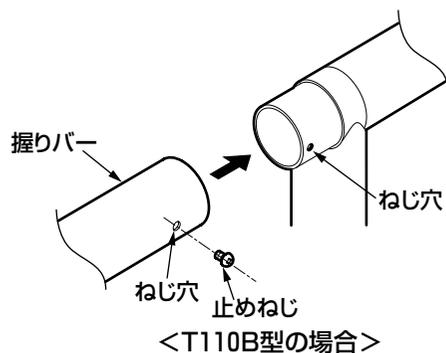
止めねじ方式の場合

【4完成図のAの場合】

- ①継手のねじ穴に握りバーのねじ穴が合うように握りバーを押し込む。
- ②止めねじでしっかり止める。
- ③キャップを取り付ける。
(T113BL3・BR3の場合のみ)

注意

キャップには方向性がありますので、爪が握りバーの軸方向になるように取り付けてください。



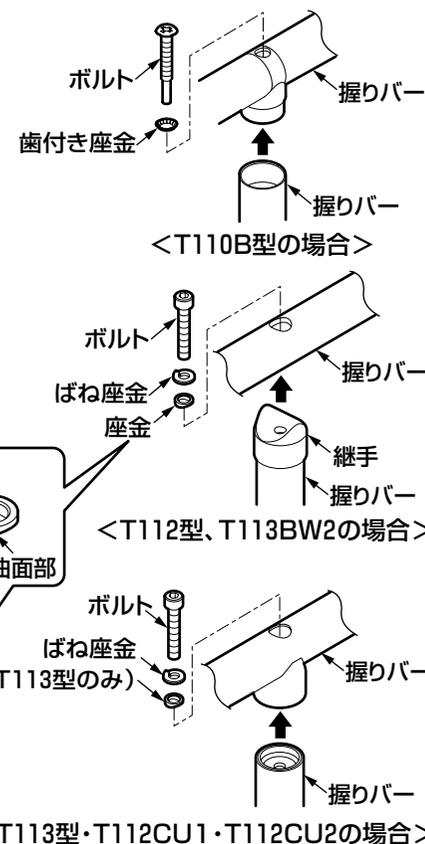
ボルト方式の場合

【4完成図のBの場合】

- (1) T110B型
 - ①右図の順序のように、ボルトに歯付き座金を通して、ドライバーで仮締めする。
- (2) T112型、T113型
 - ①右図の順序のように、ボルトにばね座金、座金を通して、六角スパナにて握りバー同士を仮締めする。

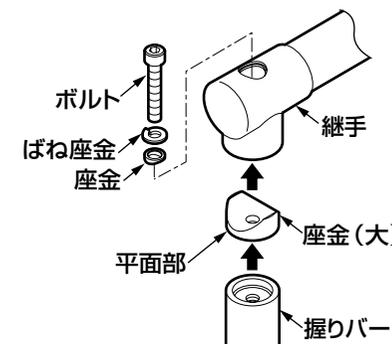
注意

- 座金には平面部と曲面部がありますので、平面部をばね座金側としてください。座金を逆に取付けると、手すりにゆりみが発生する場合があります。(T112CU1、CU2の場合は座金は使用しません)
- 手すりを取り付ける前に本締めを行わないでください。本締めをした後に手すりを取り付けると、手すりが取り付けられない場合があります。



【4完成図のCの場合】

- ①継手に座金(大)、握りバーの順序で押し込む。
※座金(大)は平面部が握りバーと接するように取り付けてください。
- ②ボルトの取付けは「4完成図中のB部」と同じ要領にて取り付ける。



1.位置決め

手すりの取付位置を決め、穴を開ける。

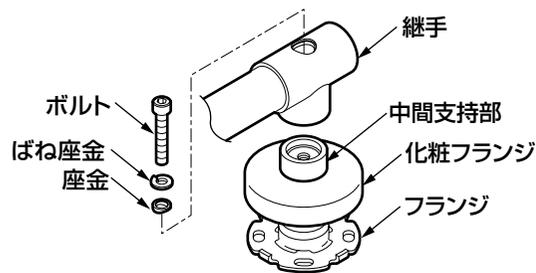
穴開け方法は「8 手すりの取付け」の各取付方法を参照してください。

2.中間支持部の分解

(T112・T113型の場合)

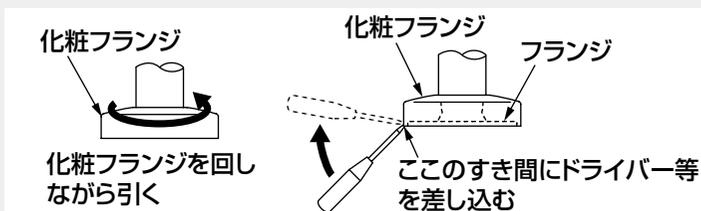
①継手からボルト、ばね座金、座金を外し、継手を外す。

②中間支持部から化粧フランジを外す。



注意

T113BL・BR・BL1・BR1の場合はいたずら防止のため、化粧フランジが外しにくい構造となっていますので、外れない場合は、化粧フランジを回しながら外すか、化粧フランジとフランジのすき間にドライバー等を差し込み、壁や化粧フランジを傷つけないように注意して外してください。



3.中間支持部の取付け

外した中間支持部を取付け面に取り付け、化粧フランジをフランジに当たるまで押し付ける。

取付方法は「8 手すりの取付け」の各取付方法を参照してください。

4.接続部の組立て

継手と握りバーを組み立てる。

組立方法は「6 手すりの組立」の「止めねじ方式の場合」を参照してください。

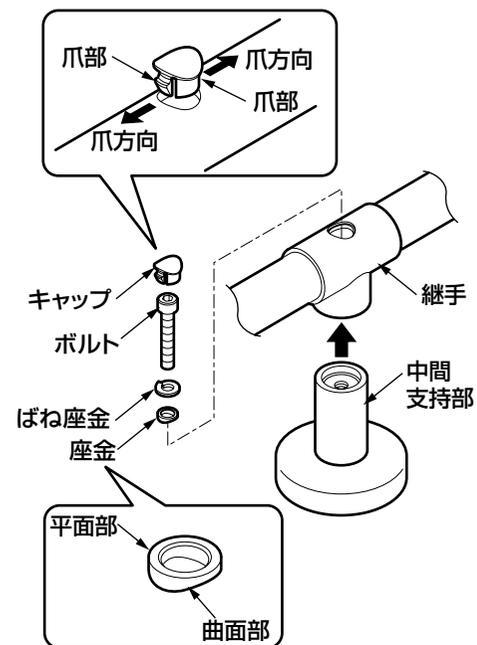
5.継手の取付け

①継手に中間支持部を差し込み、ボルトにばね座金、座金を通して六角棒スパナにて締め付ける。

②取付後にキャップを取り付ける。

注意

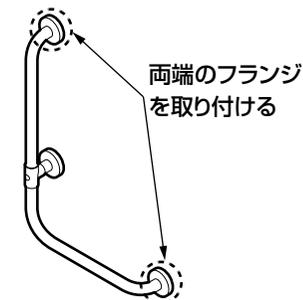
- 座金には平面部と曲面部がありますので、平面部をばね座金側としてください。座金を逆に取付けると、手すりにゆれが発生する場合があります。
- キャップには方向性がありますので、爪が握りバーの軸方向になるように取付けてください。



6.両端のフランジの取付け

握りバー両端のフランジを取付け面に取り付ける。

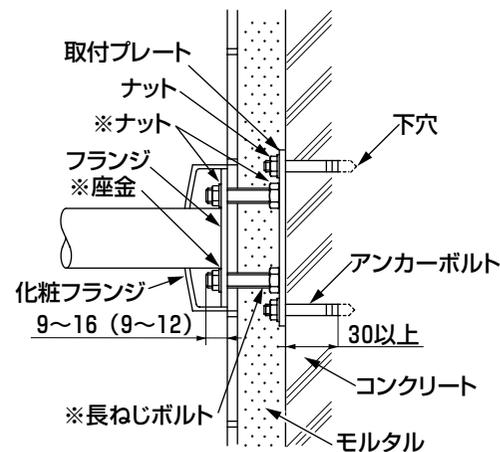
取付方法は「8 手すりの取付け」の各取付方法を参照してください。



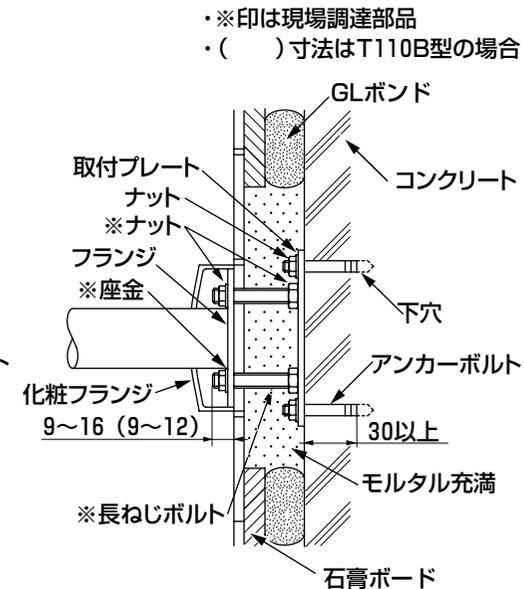
コンクリート下地・GL工法：取付プレート固定の場合

固定金具品番	T110D3、T110D11又は12、13、14
現場調達部品	M6ステンレス長ねじボルト、M6ステンレスナット、M6用座金

- ①心出しをした後、φ6.5mmのアンカーボルト用の下穴を約70mmの深さにあける。 **注1・2**
- ②ナットをアンカーボルト上端より2～3mm程度ねじ込み、取付プレートの取付穴に通して下穴に差し込む。 **注3**
- ③アンカーボルトの打ち込みピンをアンカーボルト上端に当たるまで打ち込んだ後、ナットを締め付ける。 **注4・5**
- ④取付プレートのボルト穴に、ナットを組んだ長ねじボルトをねじ込み、ナットで締め付ける。
- ⑤壁仕上げの後、長ねじをボルトの出代が壁仕上げ面より9～16（手すりがT110B型の場合は9～12）mmになるように調整する。 **注6**
- ⑥フランジの取付穴をボルトに通して、ナット、座金で締め付ける。 **注7**
- ⑦化粧フランジを仕上げ面に押し付ける。



〈コンクリート下地〉



〈GL工法〉

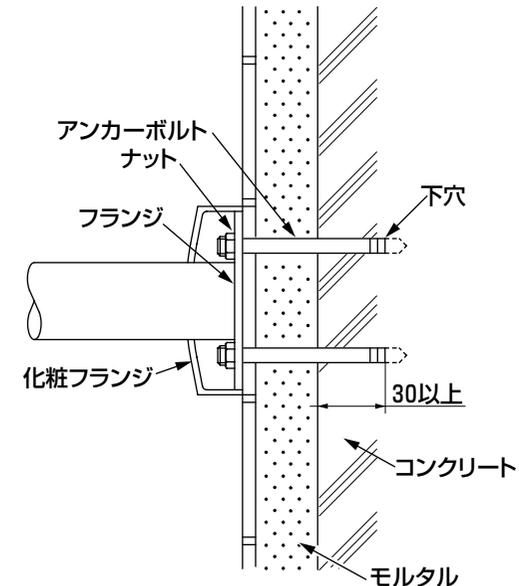
注意

- 注1:コンクリートに径6.5mm、深さ70mmの下穴をあけることのできる適切なドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと取付プレートの確実な固定ができないことがあります。
- 注2:取付プレートの取付位置は、手すり現物で合わせるか、フランジ間の寸法±1mmで固定してください。上記寸法から外れると、手すりがガタついたり、取付けできないことがあります。
- 注3:アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は30mm以上となるようにしてください。30mm以下となると手すりがガタついたり、取付けできないことがあります。
- 注4:アンカーボルトの打ち込みピンは必ず上端に当たるまで打ち込んでください。取付プレートがガタついたり、外れたりすることがあります。
- 注5:アンカーボルトを打ち込んだのち、穴の周囲にシーリング材を必ず塗布してください。
- 注6:長ねじボルトの長さが壁仕上げ面より規定の長さの範囲となるようにしてください。上記範囲から外れると、カバー及び手すりが取付けできないことがあります。
- 注7:ナットを強く締めすぎてタイルを割らないようにご注意ください。

コンクリート下地：アンカーボルト固定の場合

固定金具品番 T110D3

- ①手すりを組み立てる。
- ②心出しをした後、 $\phi 6.5\text{mm}$ のアンカーボルト用の下穴を約70mmの深さにあける。 **注1**
- ③ナットをアンカーボルト上端より2~3mm (T112CW2・3、T113BW2・3の棚部は5~6mm)程度ねじ込み、下穴に差し込む。 **注2**
- ④アンカーボルトの打ち込みピンをアンカーボルト上端に当たるまで打ち込んだ後、ナットを締め付ける。 **注3、4**
- ⑤ナットを外し、フランジの取付穴をアンカーボルトに通して、ナットで締め付ける。 **注5**
- ⑥化粧フランジを仕上げ面に押し付ける。



注意

- 注1:**コンクリートに $\phi 6.5\text{mm}$ 、深さ70mmの下穴をあけることのできる適切なドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと取付プレートの確実な固定ができないことがあります。
- 注2:**アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は30mm以上となるようにしてください。30mm以下となると手すりがガタついたり、取付けできないことがあります。
- 注3:**アンカーボルトの打ち込みピンは必ず上端に当たるまで打ち込んでください。手すりがガタついたり、外れたりすることがあります。
- 注4:**アンカーボルトを打ち込んだのち、穴の周囲にシーリング材を必ず塗布してください。
- 注5:**ナットを強く締めすぎてタイルを割らないようにご注意ください。

木下地・軽量鉄骨下地・トイレブース：コーチねじ固定の場合

固定金具品番 T110D15又は16(木下地・軽量鉄骨下地)、T110D23(トイレブース)

※トイレブースは厚みが30mm以上の場合のみ製品が取付けできます。(*印の製品のみ)

注意

下表に適合した厚みのコンパネ及び補強木を必ず取り付けてください。
補強木を取り付けないと、手ずりがガタついたり、外れたりすることがあります。

対象製品	コンパネ+補強木の厚み
T110BM1・BM2・BM3・BM4・BM5・BM6・BM7・BM8	* 12mm以上
T110BML・BML1・BMR・BMR1	
T112C3・C4・C5・C6・C8・C10・CL・CL1・CL5・CL6・CR・CR1 CR5	
T113B3・B4・B5・B6・B8・B10・BL・BL1・BR・BR1	30mm以上
T110BML2・BMR2	
T112CL2・CL3・CR2・CR3・CD6	60mm以上
T113BL2・BL3・BR2・BR3	
T110BC1・BC2・BU1R・BU2・BL1・BL2	
T112CL4・CR4・CP1・CP2・CP3・CP4・CP6・CP7・CP8 CPW・CPW1・CU1・CU2・CW2・CW3	60mm以上
T113BP1・BP2・BP3・BP4・BPW・BU1R・BU2・BW2・BW3	

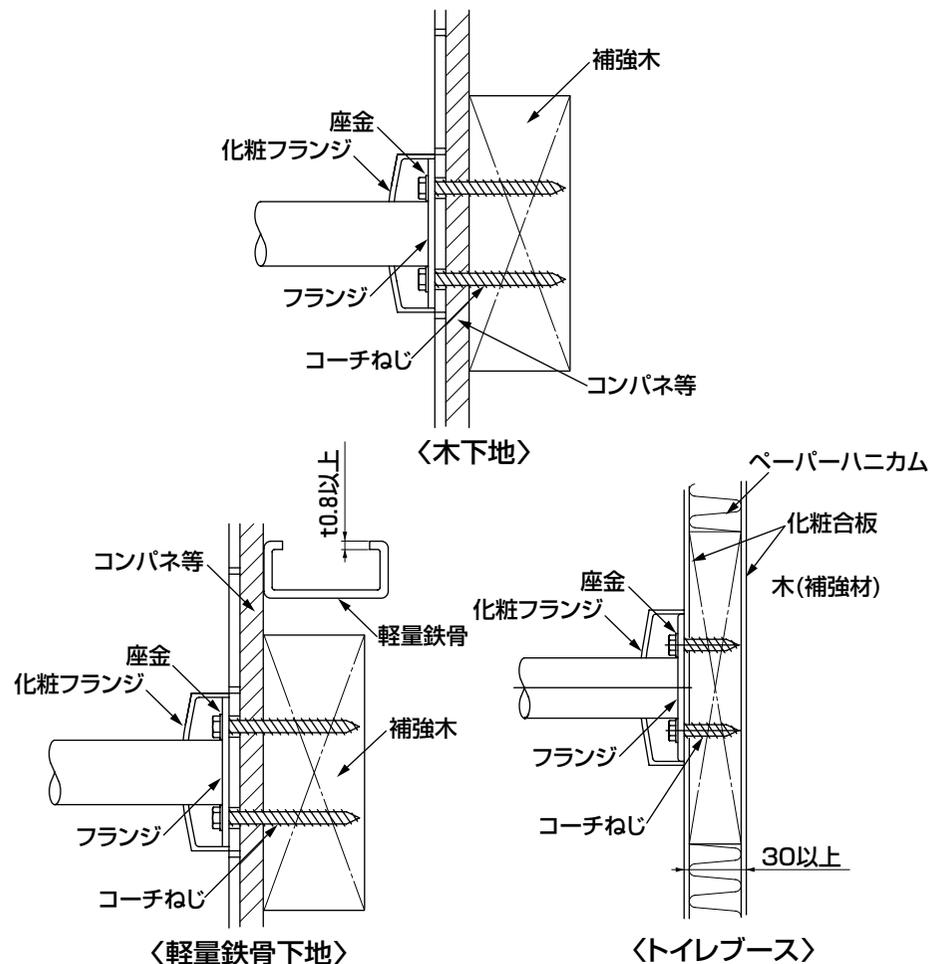
- ①手ずりを組み立てる。
- ②心出しをした後、下穴をφ4mmのドリルであける。 **注1**
(タイル壁の場合は、タイル部のみ通し穴をφ6.5mmのドリルであけてください。)
- ③コーチねじに座金を通し、フランジの取付穴よりコーチねじで取り付ける。 **注2・3**
- ④化粧フランジを仕上げ面に押し付ける。

注意

注1:φ4mmの下穴をあけることのできる適切なドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと取付プレートの確実な固定ができないことがあります。

注2:コーチねじをねじ込んだのち、穴の周囲にシーリング材を必ず塗布してください。

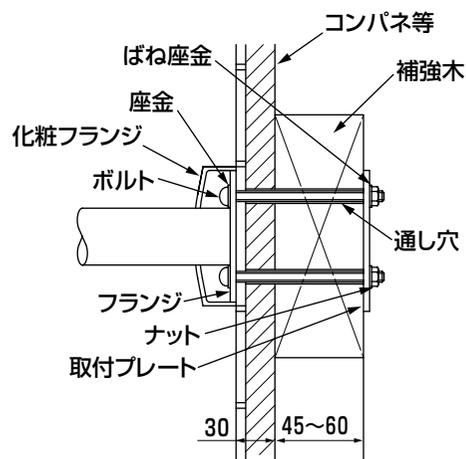
注3:コーチねじを強く締めすぎてタイルを割らないようにご注意ください。



木下地：はさみ込み固定の場合

固定金具品番	T110D4
--------	--------

- ①事前に補強木を取り付ける。 **注1**
- ②心出しをした後、ボルトの通し穴をφ6.5mmのドリルをあける。 **注2**
- ③ボルトを座金とフランジの取付穴に通して、通し穴に差し込む。
- ④壁裏側に取付プレートを当てがってばね座金、ナットで締め付けながら、表側よりドライバーで締め込む。 **注3**
- ⑤化粧フランジを仕上げ面に押し付ける。

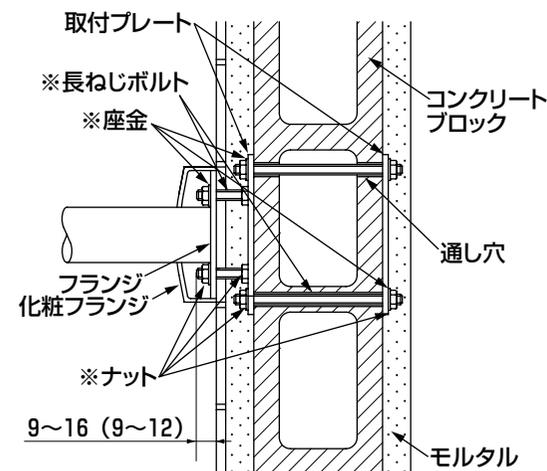
**注意**

- 注1:** 厚み45~60mmの補強木を必ず取り付けてください。補強木を取り付けないと、手ずりがガタついたり、外れたりすることがあります。
- 注2:** 補強木にφ6.5mmの通し穴をあけることのできる適切なドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと確実な固定ができないことがあります。
- 注3:** ボルトを強く締め過ぎてタイルを割らないようにご注意ください。

コンクリートブロック下地：取付プレートはさみ込み固定の場合

固定金具品番	T110D11又は12、13、14
現場調達部品	M6ステンレス長ねじボルト、M6ステンレスナット、M6用座金

- ①心出しをした後、取付プレートの外側の穴に合わせ、長ねじボルトの通し穴をφ8mmのドリルをあける。 **注1**
- ②長ねじボルトを通し穴に差し込み、壁両面に取付プレートを当てがって両側よりナット、座金で締め付ける。
- ③手すり取付側の取付プレートのボルト穴に、長ねじボルトをねじ込み、ナットを締め付ける。
- ④壁仕上げの後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9~16 (手ずりがT110B型の場合は9~12) mmになるように調整する。 **注2**
- ⑤フランジの取付穴をボルトに通して、ナット、座金で締め付ける。 **注3**
- ⑥化粧フランジを仕上げ面に押し付ける。

**注意**

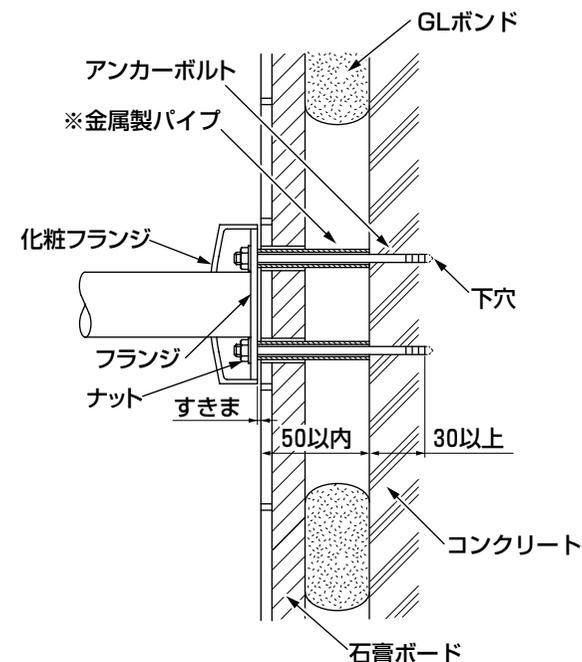
- 注1:** 空洞部をモルタル等で埋める必要はありません。
- 注2:** 長ねじボルトの長さが壁仕上げ面より規定の長さの範囲となるようにしてください。上記範囲から外れると、カバー及び手ずりが取付けできないことがあります。
- 注3:** ナットを強く締め過ぎてタイルを割らないようにご注意ください。

GL工法：アンカーボルト+パイプ使用固定の場合

固定金具品番	T110D18
現場調達部品	φ13.8 (t2) 金属製パイプ

・※印は現場調達部品

- ①手すりを組み立てる。
- ②心出しをした後、φ6.5mmのアンカーボルト用の下穴を壁仕上げ面より約100mmの深さにあける。 **注1**
- ③石膏ボードの部分のみ、パイプ埋込用通し穴をφ14mmのドリルであける。
- ④金属製パイプをコンクリート下地面に当たるまで挿入し、壁仕上げ面より0.5mm程度凸になるようにカットする。
※長さが足りない場合は、座金などを差し込んで調整してください。
- ⑤ナットをアンカーボルトの上端より2～3mm (T112CW2・3、T113BW2・3の棚部は5～6mm)程度ねじ込み、金属製パイプに通し、下穴に差し込む。 **注2**
- ⑥アンカーボルトの打ち込みピンをボルトの上端に当たるまで打ち込んだ後、ナットを締め付ける。 **注3・4**
- ⑦ナットを外し、フランジの取付穴をアンカーボルトに通して、ナットで締め付ける。
※T112CW2・3、T113BW2・3の棚部は製品同梱の化粧ナットを使用してください。
- ⑧化粧フランジを仕上げ面に押し付ける。



注意

注1:コンクリートにφ6.5mm、深さ約100mmの下穴をあけることのできる適切なドリルを使用してください。ドリルの刃サイズが大きすぎたり、心振れを起こすと取付プレートの確実な固定ができないことがあります。

注2:アンカーボルトのコンクリートへの埋込代は30mm以上となるようにしてください。30mm以下となると、手すりがガタついたり、取付けできないことがあります。

注3:アンカーボルトの打ち込みピンは必ず上端に当たるまで打ち込んでください。手すりがガタついたり、外れたりすることがあります。

注4:アンカーボルトを打ち込んだのち、穴の周囲にシーリング材を必ず塗布してください。

軽量鉄骨下地：取付プレート溶接固定の場合

固定金具品番	T110D11又は12、13、14
現場調達部品	M6ステンレス長ねじボルト、M6ステンレスナット、M6用座金

①手すりの固定位置や給排水位置を考慮して、スタットに補強用の軽量鉄骨を溶接する。 **注1**

②取付プレートのボルト穴に、長ねじボルトをねじ込み、裏側よりナットで締め込む。

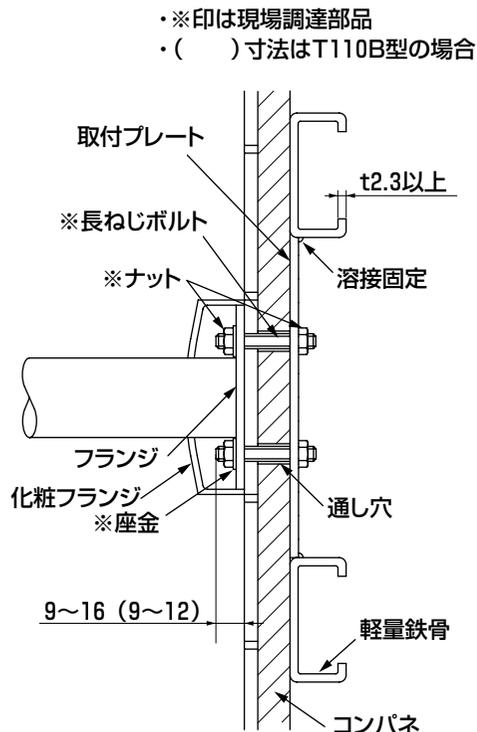
③心出しをしながら、補強用軽量鉄骨に取付プレートを溶接する。

④φ10mm程度の長ねじボルト通し穴をあけたコンパネをスタットに取り付ける。

⑤壁仕上げの後、長ねじボルトの出代が壁仕上げ面より9～16（手すりがT110B型の場合は9～12）mmになるように調整する。 **注2**

⑥フランジの取付穴をボルトに通して、ナット、座金で締め付ける。 **注3**

⑦化粧フランジを仕上げ面に押し付ける。



注意

注1：軽量鉄骨は肉厚2.3mm以上を使用してください。手すりがガタついたり、取付けできないことがあります。

注2：長ねじボルトの長さが壁仕上げ面より規定の長さの範囲となるようにしてください。上記範囲から外れると、カバー及び手すりが取付けできないことがあります。

注3：ナットを強く締め過ぎてタイルを割らないようにご注意ください。

トイレブース：はさみ込み固定の場合

固定金具品番	T110D22
--------	---------

注意

トイレブースは厚み40mmペーパーハニカム、メラミン及びポリエステル合板仕様相当の場合、多用途用I型、多用途用L型（T112CL4、CR4は除く）のみ取付可能です。T112CW2・3、T113BW2・3はトイレブースの中に補強木を入れて取り付けてください。

①手すりを組み立てる。

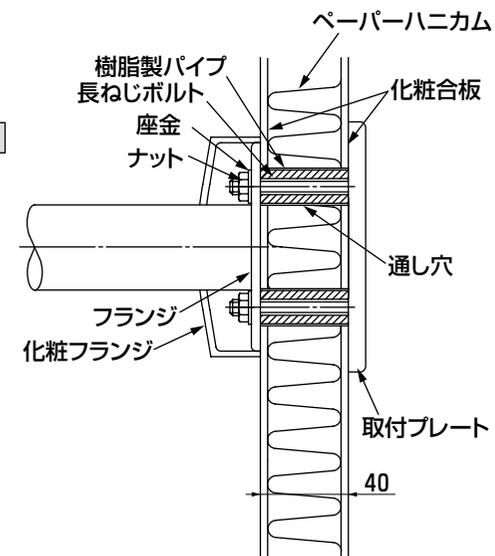
②心出しをした後、パイプの通し穴をφ13mmのドリルであける。

③樹脂製パイプを通し穴に挿入する。 **注1**

④取付プレートのボルト穴に接着剤を塗布し、長ねじボルトを最後までねじ込み、ブース裏側よりパイプの穴にねじを差し込みながらあてがう。

⑤フランジの取付穴をボルトに通し、ナット、座金で締め付ける。（T112CW2・3、T113BW2・3の棚部は製品同梱の化粧ナットを使用してください）

⑥化粧フランジを仕上げ面に押し付ける。



注意

注1：トイレブースに補強木を入れた場合は、固定金具に同梱のパイプは使用せずに取り付けできます。

※他の施工方法については、当社各支社・支店、営業所へお問い合わせください。

9

接続部の仕上げ（ボルト方式の場合）

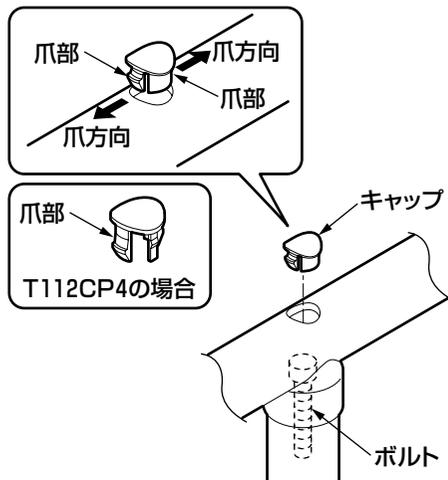
①手すりを取り付けた後、ボルトを六角スパナ（T110B型はドライバー）にて本締めする。

②キャップを取り付ける。

注意

●キャップには方向性がありますので、爪が握りバーの軸方向になるように取り付けてください。

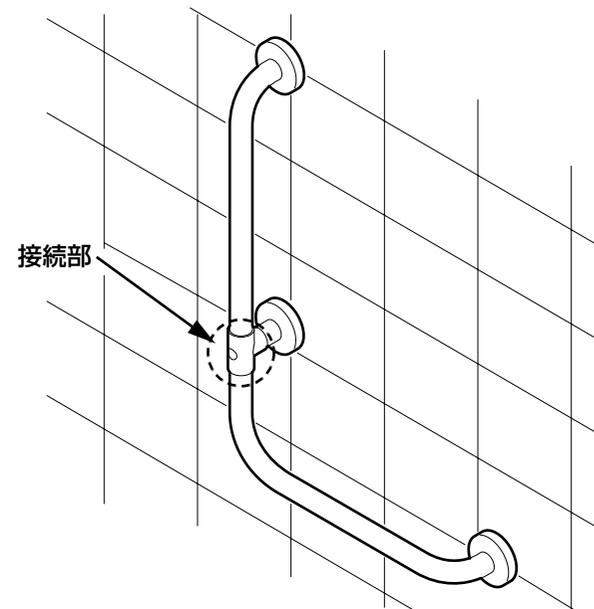
●T112CP4には爪部の脚の長いキャップを使用してください。



10

点検項目

取付けが完了した後、次の項目を確認してください。



ガタツキの確認

手すりにガタツキがないか確認してください。

接続部はしっかり組み立っていますか？

- ➡ ⑥ 「手すりの組立て」 参照
- ➡ ⑨ 「接続部の仕上げ」 参照

手すりは壁にしっかり取り付けていますか？

- ➡ ⑧ 「手すりの取付け」 参照